

平成 29 年度第 3 回 男女共同参画推進特別委員会 議事録（平成 29 年 6 月 15 日）

出席： 畝本 恭子（委員長）、阿南 英明、岡田 昌彦、小澤 昌子、木田 真紀
木田 佳子、七戸 康夫、番匠谷 友紀、本多 ゆみえ（WEB 出席）
矢口 有乃

欠席： 田中 裕（担当理事）、木村 昭夫、角 由佳、長谷 敦子、並木 淳、
並木 みずほ

1. 前回議事録確認

2. 日本能率協会総合研究所（医師の勤務環境改善の事例）の検討

① 倉敷中央病院の事例：七戸委員より 救急搬送件数とともに救急医が増え、さらにワークライフバランスを大切にできる環境が整い、2013 年から 24 時間体制の救急受け入れが可能となった。これは、他科との連携を維持しながらの救急の立ち上げ、勤務体制の調整（総合診療科、救急科、集中治療科）と、病院からのバックアップなどの結果、可能となったもの。

② その他 何件か事例を提供したい

- 但馬救命救急センターの事例を番匠谷委員より提供
- その他、委員間でこれと思う施設があれば追加
- 先方の依頼期限が迫っているので、一般には募集しない

3. 第 45 回日本救急医学会総会の委員会企画の進捗状況

① パネルディスカッション：男女共同参画への取り組み～ボスの本音、施設運営の理想と現実ボスの本音～

- 抄録の検討：応募演題 5 題があるが、今回の PD のテーマとは合わない。米国の Tiffany C. Fong 先生が指定演者になっておられる。
- 今回の PD の趣旨から、イクボスのコメント抜きには成り立たない。一方で、わかってはいるが難しい、または、救急はそもそもそんなことでは成り立たないという管理者もいると考えると、理想形だけ発表しても意味がない。あえて、Pros cons の形にし、今回応募いただいた先生を中心に、会場とディスカッションを展開する
- 司会は、矢口委員、林寛之先生（福井大学）
- パネリスト：志賀隆先生（国際医療福祉大学）、小林誠人先生（公立豊岡病院 但馬救命救急センター）、松本尚先生（日本医科大学千葉北総病院）、三浦敏靖先生（名古屋市立大学病院）、
- アンケート結果
 - ◇ 今回、救急専門医指定病院の施設長宛てにお送りしたアンケートの回収

率は 68%であり、多くの施設にお答えいただいた。これをもとに、報告する。(畝本)

- シンポジウムではなく PD なので、一致したコンセンサスを求めるわけではないが、救急施設の管理者は、男女にかかわらず、ワークライフバランスを考えた施設運営を行うべきであるというメッセージにつなげたい。

② 女性医師ラウンジについて

- 会長のご厚意により、今回も開設予定
- 託児所についても、委員会として、会場内、余裕のある定員についてすでに要望をお伝えしている
- 場所、内容等は第 45 回総会事務局と連絡の上、適宜、委員にお伝えする(畝本)
- 3 日間開設予定。パネルディスカッションの時間が決定次第、時間割の決定と係の募集(委員のご協力をお願いいたします)

4. 本委員会の通年の事業について

- ① タスクフォースとのコラボレーションが有効
- ② '救急医を目指すきみへ'のコンテンツとして、これまでの総会での企画、アンケートの結果、これまでのパネラーの先生からの良いコメントを載せるなど

次回 9月26日 10~12時 学会事務局